

享月

三

庚午

星

2006年(平成18年)6月16日

金曜日

せんそく症状 木炭が効く?

木炭が空気中の湿度を調節することで、小児ぜんそくの症状が緩和される可能性がある。こんな研究成果を島根大医学部などの研究グループがまとめ、5月末に東京で開かれた日本アレルギー学会で発表した。研究メンバーは「ぜんそく治療にとって、有効な方法になるかもしない」と話している。

島根大などのグループ発表

発表したのは、島根大や

公立雲南総合病院、出雲市
の建築会社「出雲土建」な
どのグループ。

近年、気密性の高い住宅
が多くなり、カビやダニが
繁殖しやすくなつた結果、
ぜんそくなどのアレルギー
症が増えたと指摘されてい
る。研究グループは、湿気
を吸つたり出したりして、
湿度を一定に保ち、カビの
発生を抑えるとされる木炭
の役割に注目した。

04年1月以降、島根大付
属病院に受診した小児ぜん
そく患者7人(研究開始時
3~10歳)の自宅の寝室や
床下、天井に袋入り「調湿
木炭」(1袋12kg、1・3

を數き詰めた。

その結果、6カ月後あた
りから7人中6人の症状が
改善。発作が減り、学校を
休む回数も少なくなった。
投薬量の低下で治療点数が
減り、呼吸機能を表す数値
が上昇した患者もいたとい
う。患者の部屋を調べたと
ころ、湿度が70%前後に保
たれ、カビ胞子が3カ月間
で4分の1に減った事例が
あった。

グループの竹谷健・同大
医学部助手(35)は「木炭が
住宅環境を改善し、ぜんそ
くの症状を和らげる可能
性はある」と話す。グループ
は今後も実験を続け、研
究を深めたいとしている。